

## 平成30年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	33・1	学校名	清水南高等学校・同中等部	校長名	石川 芳恵
------	------	-----	--------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	中高一貫教育校にふさわしい教育課程の検討、授業改善及び学習指導の充実を図る。	「授業がわかる」と答える生徒の割合：80%（中・高共通）	中 91.4% 高 82.1%	A	達成方法に対する成果目標の因果関係が薄い。わかるだけではなく、定着に重点を置いた成果目標を考えたい。
		週5日以上家庭学習に取り組む生徒の割合：80%（中・高共通）	中 77.5% 高 74.4%	B	学習の仕方がわかっていない生徒が多い。多くの課題を出していけば、成果目標は当然達成できるが、中位層以下では、何を勉強していいかわからない生徒も多い。自主的な学習に取り組ませるための手立てを再検証する必要がある。
		校内演奏会、公開レッスン等実施回数：年間計 12回 美術鑑賞、実技講習会等実施回数：年間計 10回	音 13回 美 16回	A	静岡音楽館 AOI 学芸員による課外授業を新規に実施し、キャリア教育も充実させることができた（音楽）。今年度も複数の美術系予備校と連携して、実技講習会を実施し、生徒の実技力及び教員の実技指導力の向上を図ることができた（美術）。
		芸術科を本校の特色として感じている生徒の割合：80%	中 89.6% 高 81.6%	A	普通科も芸術科の活動に触れ、良い刺激を受けている。今後も芸術科の広報に努める。
イ	こころざしを育むための進路指導の充実を図る。	講演、講義等の回数：年間計7回	7回	B	外部の力を活用することは、新学習指導要領でも重視されていることだが、授業やLHRを圧迫して講演等を入れるべきではない。普段の授業や行事などで外部の力が活用できるような仕組みの構築がしたい。
		中学：学力到達度調査（中3の評価A以上を27%以上） 高校：国公立大学実合格率（普通科35%以上）、芸術系大学実合格率（芸術科70%以上）	中 35% 普 35% 芸 80%	B	学力格差の問題が深刻化する中、習熟度クラスが持てない科目で授業の質を保つのは、かなり困難な状況になりつつある。国公立はAO、推薦で多くの合格を出しているが、合格の見込みのある生徒は限られており、安易に受験者を増やしても合格率は上がらない。

様式第3号

ウ	中高が連携し、効果的な生徒指導を推進する。	年間の交通事故件数：中等部・高校ともに前年度比減	中5→4件 高6→5件	B	大きな交通事故もなく、事故件数も減少した。中高連携し、年度当初及び長期休業前にルール指導の機会を複数回設けたい。
		「信頼できる先生がいる」と答える生徒の割合：70%(中・高共通)	中74.8% 高66.0%	B	生徒一人一人のよさを認め、生徒に寄り添いながら、教職員への信頼感を高めるよう努める。
		「自分には良いところがある」と答える生徒の割合：70%(中・高共通)	中70.6% 高67.6%	C	生徒の自己肯定感を高めるよう、継続してボイスシャワー等の取組に努める。
		生徒向け「相談室だより」発行：年間計10回	3月まで10回	B	読みやすい紙面構成を心がけ、心の健康に役立つ情報を提供した。年間を通したテーマの設定や、内容が重複しないように月の課題やトピックなどを工夫していきたい。
		「学校に相談できる人がいる」と答える生徒の割合：80%(中・高共通)	中83.4% 高76.0%	C	高校の目標値が下回っており、生徒の日々の様子をよく観察しながら、相談しやすい環境づくりに努める。
エ	学校行事、生徒会活動、部活動等の充実を図る。	部活動に一生懸命取り組む生徒の割合：80%以上(中高)	中91.1% 高79.8%	B	各部顧問と連携し、生徒会便りを通して部活動の大会結果等を発表した。部活検討委員会を開催し、魅力ある部活動づくりを検討していく。
		海外研修(中3、高2)で「充実している」と答える生徒の割合：90%(中・高共通)	中100% 高94.7%	A	初めての海外旅行であった生徒も多く、トラブルは発生したが現地の中学生や大学生との交流は、台湾についての理解を深める有意義な機会となった(中3)。事後アンケートの結果、生徒の目標達成度は高く、充実した研修旅行となった。語学研修が軸だが、その面の達成度は他に比べると低い。語学研修を主軸とした場合は、研修先の再検討の余地がある(高2)。
		地域に目を向けた教育活動の実施：年間5回	6回	B	羽衣の園での管弦楽部の演奏や福祉委員会の訪問を行った。清水特別支援学校等との交流では、インフルエンザで一部計画を変更した。
		「学校が楽しい」と答える生徒の割合：80%(中・高共通)	中86.9% 高73.4%	B	生徒が積極的に生徒会(委員会)活動等の運営に関わり主体的な活動ができています。中等部生が活躍する場を増やし、充実感を高めるよう努める。

様式第3号

オ	開かれた学校づくり、安心・安全の学校づくりを推進する。	土曜オープンスクール参加者数：年間 1,600人 ホームページアクセス：年間500,000件	1,489人 約73万件	B	参加者数が目標値を下回った。清水南の魅力に来場者感じてもらう取組を工夫したい。ホームページでは、学校の様子を毎日アップし、アクセス増加につなげており、継続していく。
		PTA総会出席率：50% 学年保護者会の出席率50%以上 (中・高共通)	32.5% 60.8%	C	PTA総会出席率は委任状の提出もあり、目標値を下回った。PTA総会では、養護教諭からの生徒の食生活アンケートの報告、また高校保護者会では、保護者進路講演会を同時に開催し、出席率の向上に努めた。魅力的なPTA総会の在り方について継続して検討する。
		実践的防災訓練実施：年間3回 地域防災訓練参加率： 中等部 75%、 高校 45%	3回 中 75.0% 高 43.0%	B	今年度は学校防災推進協力校として、実践的防災訓練を計画どおり実施した。今後は、生徒主体の校内防災訓練を実施し、生徒が主体的に地域防災に関わる取組を推進したい。
		講話や研修等の取組：月1回以上 県報告レベルの不祥事発生：0件	全職員会議で実施 県報告なし	B	不祥事がないよう、機会をとらえて注意喚起と情報提供を行い、職員の自覚を促した。
		予算執行等に関する校内研修会の開催：年1回	7月の職員会議内で「不適切な会計処理の根絶」をテーマに事例を交え研修会を実施。	A	適正な会計処理が行われた。より効果を高めるため、研修会と合わせ、さらなる情報発信を丁寧にしていきたい。
カ	事務業務の見直しと改善を図る。	定時退勤日の徹底	月曜日を定時退勤日に設定し、声掛けを行った。	C	教職員の仕事ぶりをみると毎回声掛けを徹底することはできなかった。現実的な対応策を考えたい。

評価	基準	評価	基準
A	十分目標を達成することができた	C	あまり目標を達成することができなかった
B	おおむね目標を達成することができた	D	ほとんど目標を達成することができなかった